

記入日： 年 月 日
記入者： _____

「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針」に関するチェックリスト

このチェックリストは、「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針」のうち、アニマルウェルフェアの考え方を満たす飼養管理のために必要な項目である【実施が推奨される事項】を抜粋し、農場内での飼養管理がアニマルウェルフェアの考え方に対応しているかどうかを定期的にチェックしていただくために作成したものです。

現在、既に行っていれば「はい」に、行っていない場合は「いいえ」に印を付けてください。「いいえ」である項目については、改善のための検討等を行っていただき、採卵鶏にとって快適な状態の提供に向けて改善を進めていただくことが必要となります。

1つのチェック項目の中に複数の実施事項がある場合、全て既に行っている場合にのみ「はい」に印をつけてください。

なお、設問等の内容で御不明な点がある場合は、指針の本文を御参照ください。

第1 管理方法

1 観察・記録

チェック項目	はい	いいえ
① 1日1回以上、飼養環境や健康状態の悪化の兆候がないかを確認していますか。（例：飼料、水、換気、照明、体調、損傷の有無、行動等）	☐	☐
② 飼養管理に関する記録（日誌や報告書等）を毎日つけていますか。（例：疾病及び事故の発生の有無並びに原因、死亡羽数、産卵率、気温等）	☐	☐

2 鶏の取扱い

チェック項目	はい	いいえ
① 鶏に不要なストレスを与える突発的な行動や手荒な扱いを避け、可能な限り丁寧に取り扱っていますか。	☐	☐
② 捕鳥の際は、ストレス及び損傷等を最小限に抑えるよう努め、首又は翼の先端を持って取り上げないようにしていますか。	☐	☐
③ 育成段階での馴致は行っていますか（導入元の飼養環境を把握することなどを含む。）。	☐	☐

3-（1）羽つつき防止（ビークトリミング）

チェック項目	はい	いいえ
羽つつきを防止するため、適用可能な管理措置をとっていますか。（例：飼養スペースの調整、照明の管理、損傷した鶏やつつきをする鶏の分離等）	☐	☐

3-（2）ビークトリミング（実施している場合はお答えください 該当なし ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 可能な限り若齢の時に実施していますか。	☐	☐
② 痛みを最小限に抑え、出血を少なくする方法で、必要最小限の部分のみを取	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
り除いていますか。		
③ 実施後は、止血しているか注意深く観察し、必要に応じてビタミン剤を投与する等の処置を行っていますか。	☐	☐

4 誘導換羽（休産）（実施している場合はお答えください 該当なし ☐)

チェック項目	はい	いいえ
① 綿密な管理の下で健康な鶏に限り実施していますか。	☐	☐
② 異状（通常よりも死亡率及び淘汰率が高い等）が見られた場合は、誘導換羽を直ちに中止していますか。	☐	☐
③ 24 時間以上の絶食は行わず、常に飲水可能としていますか。	☐	☐
④ 適切な光線管理を実施していますか。	☐	☐

5 疾病、事故等の措置

チェック項目	はい	いいえ
① 疾病及び健康問題の予防及び治療のための計画を整備していますか。	☐	☐
② 疾病に罹患し、又は損傷しているおそれのある鶏が確認された場合、可能な限り丁寧に移動させ、分離し、迅速に手当を行っていますか。	☐	☐
③ ワクチン接種や治療は、獣医師の指導の下、痛みや恐れに配慮して行っていますか。	☐	☐
④ 止むを得ず安楽死させる場合には、判断権限のある者が決定し、「家畜の農場内における安楽死に関する技術的な指針」を参照の上、文書化された手順と適切な器具により可能な限り速やかに行っていますか。	☐	☐

6 鶏舎等の清掃・消毒

チェック項目	はい	いいえ
① 鶏舎の清掃、洗浄及び消毒を行い、施設、設備等を清潔に保っていますか。	☐	☐
② 排せつ物は適切に取り除き、敷料又は床面は乾燥した状態を保っていますか。	☐	☐
③ 出荷後は、基本的に新しい群の導入前に鶏舎の洗浄、消毒及び乾燥を行うとともに、適切な空舍期間を設けていますか。	☐	☐

7 農場内における防疫措置等

チェック項目	はい	いいえ
① 家畜伝染病予防法に基づく「飼養衛生管理基準」を遵守するとともに、「飼養衛生管理マニュアル」を作成し、その実施と定期的な見直しを行っていますか。また、日常から伝染性疾病的発生予防に必要な知識を習得していますか。	☐	☐
② 鶏に異状が認められた場合、獣医師等に相談するとともに、家畜伝染病予防法に基づく特定症状が確認された場合、直ちに家畜保健衛生所に通報する体制ができていますか。	☐	☐
③ 病原体を伝播する有害動物や吸血昆虫、外部寄生虫の侵入及び発生を防止するとともに、発生時は速やかに駆除していますか。	☐	☐

8 管理者等のアニマルウェルフェアへの理解の促進

チェック項目	はい	いいえ
① アニマルウェルフェアの指標や改善方法について知識と技術を習得していますか。	☐	☐
② 鶏の健康及び良好な飼養環境を確保するため、十分な人数の飼養者等を確保していますか。	☐	☐

第2 栄養

1 必要栄養量・飲水量

チェック項目	はい	いいえ
① 週齢や生産方法等に応じて飼料及び水を毎日過不足なく給与し、適正なボディコンディションの範囲を逸脱しないように管理していますか。	☐	☐
② 飼料を変更する場合、計画的かつ段階的に行っていますか。	☐	☐

2 飼料・水の品質の確保

チェック項目	はい	いいえ
① 給餌器や給水の設備は、機器の製造メーカーの推奨する頻度を考慮して、定期的に点検及び清掃を行っていますか。	☐	☐
② 飼料及び飼料原料は、その品質を確保し、適切に管理するとともに、鶏の健康に悪影響を与える物質の有無について適宜検査していますか。※検査は購入先の添付書類等で確認した場合を含む。	☐	☐
③ ネズミ、野鳥等の野生動物の排せつ物等が飼料及び水に混入しないよう対策していますか。	☐	☐

3 給餌・給水方法

チェック項目	はい	いいえ
① 給餌及び給水の設備は、全ての鶏が必要な量の飼料、水及び栄養を問題なく摂取できるようにしていますか。	☐	☐
② 鶏を新たに導入した際は、飼料及び水を摂取できていることを確認していますか。	☐	☐
③ 給餌時間は可能な限り毎日同じ時間としていますか。	☐	☐
④ 食鳥処理前は、輸送等の時間も考慮した上で、過度に長時間の絶食は行わないようにしていますか。	☐	☐

第3 鶏舎

1 屋外エリアを設けない鶏舎

チェック項目	はい	いいえ
① 気象環境の変動によって鶏舎内の温度及び湿度が大きく変化しないよう維持及び管理していますか。	☐	☐
② 鶏舎の破損箇所によって鶏が損傷しないよう修理を行うなどしていますか。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
③ 野生動物、ネズミ、ハエ等の有害動物の侵入や発生を抑制するよう管理していますか。	☐	☐
④ 日常の飼養管理や鶏の観察を行いやすい構造になっていますか。	☐	☐

2 屋外エリアを設けた鶏舎（鶏舎に屋外エリアを設けている場合はお答えください 該当なし ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 土地や草地は、病原体や寄生虫、損傷等のリスクを低減していますか。	☐	☐
② 屋外エリアは、水はけの良い土地に設置し、湿った環境やぬかるみを可能な限り抑えるように管理していますか。	☐	☐
③ 屋外エリアには、鶏の避難場所を設け、毒性植物が生えたり、汚染物質が土壌、飼料及び飲水に混入したりしないよう管理していますか。	☐	☐
④ 鶏は、早い段階から屋外エリアに慣らしていますか。	☐	☐
⑤ 屋外エリアは、捕食動物や野鳥との接触及び疾病のリスク並びに不利な気候条件の影響を防止していますか。	☐	☐

第4 飼養方式、構造、飼養スペース及び付帯設備

1 飼養方式

（1）ケージ方式（ケージ方式で飼養している場合はお答えください 該当なし ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 飼料及び水の摂取が可能で、自然な姿勢で移動したり姿勢を正常に調整したりできるような飼養密度ですか。	☐	☐
② ケージを積み重ねて鶏を飼養する場合、上段の鶏の排せつ物が下段の鶏の上に落ちないように考慮され、全ての鶏が十分に観察でき、必要な時は、ケージから容易に鶏を取り出せるよう配置していますか。	☐	☐
③ ケージの開口部は、鶏に損傷を与えずに取り出せる大きさとなっていますか。	☐	☐

（2）平飼い方式（平飼い方式で飼養している場合はお答えください 該当なし ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 闘争行動を防止するための飼養空間の拡大、損傷した鶏やつつきをする鶏の分離、照度の低減、飼料形状の調整（細粒化）、付帯設備の提供等を行っていますか。	☐	☐
② 適切に換気を行うとともに、敷料のこまめな交換等、排せつ物の適正な管理を行っていますか。	☐	☐

2 構造・床・敷料

チェック項目	はい	いいえ
① 鶏舎等は、損傷の原因となるような突起物等がなく、清掃及び消毒が容易な構造ですか。	☐	☐
② 床の傾斜及び構造は、鶏に適切な支えを提供し、損傷や挟み込みを防止し、快適行動及び運動行動をとれるようにしていますか。	☐	☐

チェック項目	はい	いいえ
③ 床に鶏の脚等を傷つけるような破損箇所がないか点検していますか。	☐	☐

3 飼養空間

チェック項目	はい	いいえ
① 同じ鶏群の全ての鶏に対し、妨げられることなく、同時に休息し、正常な姿勢をとる等のための十分な空間を与えていますか。	☐	☐
② 異常な行動がみられる場合、飼養空間の再設定等の是正措置を講じていますか。	☐	☐

第5 鶏舎の環境

1 熱環境

チェック項目	はい	いいえ
① 鶏をよく観察し、極度の高温多湿及び低温を避けるよう、断熱材の利用や換気、飼養密度の調整等を行い、可能な限り適温を維持していますか。	☐	☐
② 鶏舎の熱環境を定期的に監視し、熱環境を制御するシステムは、メーカーの推奨する頻度で定期的に点検していますか。※システムを保有していない場合はチェック不要	☐	☐

2 換気

チェック項目	はい	いいえ
鶏舎内で作業を行う飼養者等が、鶏の頭の高さで臭気を不快に感じる状態とならないよう、鶏舎全体に、常に新鮮な空気を供給していますか。	☐	☐

3 照明（実施している場合はお答えください。 該当なし ☐）

チェック項目	はい	いいえ
① 光線管理に当たっては、鶏舎内に適切な継続した明期を設け、鶏の正常な行動や飼養者等による適切な管理のため、十分な照度を均等に照射していますか。	☐	☐
② 光線管理を行う際、照明の変化に徐々に順応するための期間を設けていますか。	☐	☐
③ 鶏のストレスを低減し、概日リズムを促すため、各 24 時間の間に継続した暗期を適切に設けていますか。	☐	☐

4 騒音

チェック項目	はい	いいえ
鶏舎内外の設備等による騒音や突然の大きな騒音は、可能な限り小さくするよう、設置及び維持・運用していますか。	☐	☐

第6 アニマルウェルフェアの状態確認等

1 アニマルウェルフェアの状態確認

チェック項目	はい	いいえ
本チェックシートを用いて定期的に現状の飼養管理を確認していますか。	☐	☐

2 設備の点検・管理

チェック項目	はい	いいえ
設備が正常に作動しているか、少なくとも1日1回点検し、故障を発見した場合、迅速に修理していますか。	☐	☐

3 緊急時の対応

チェック項目	はい	いいえ
① 自然災害等に備えるため、緊急時計画又は危機管理マニュアル等を整備し、習熟するとともに、全ての関係者と共有していますか。	☐	☐
② 不具合を検出する警報や発電機などの予備システムを整備していますか。また、予備システム等は定期的に点検していますか。※緊急時に予備システム等が必要であるが整備していない場合は「いいえ」にチェック。※予備システム等が不要な場合はチェック不要。	☐	☐
③ 自然災害等の影響により、鶏や鶏舎等に被害が生じるおそれがある場合、可能な限り、事前に対策をとっていますか。	☐	☐

採卵鶏にとって快適な状態であるかを確認するためのチェックリスト

このチェックリストは、鶏が快適な状態であるかを確認するための指標です。「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針に関するチェックリスト」を記述した際に、併せてチェックしてください。そのほか、飼養環境が変化した際など、適宜チェックしてください。「はい」の項目がある場合は、獣医師や専門家等に意見を求めるとともに、日常の管理方法や栄養、鶏舎等に問題がないかを再確認しましょう。

第1 餌・水

チェック項目	はい	いいえ
① 摂食行動や飲水行動をしていない鶏が多くいる。	☐	☐
② 発育不良等が原因で安楽死させる鶏が多くいる（通常よりも安楽死させる割合が高い。）。	☐	☐
③ 1日当たりの摂食量や飲水量が前日に比べて大きく異なっている。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、疾病発生を疑うほか、給餌・給水の方法や飼料・水の品質、必要栄養量・飲水量等の再確認が必要です。

第2 恐怖

チェック項目	はい	いいえ
① 鶏舎に人が入った際（見回りの時など）に、急いで人から逃げる鶏が多くいる（鶏が逃げようとして鶏舎内が騒然となる。）。	☐	☐
② 甲高い警戒の発声をしている鶏が多くいる。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、鶏の取扱い方法、照明等の再確認が必要です。

第3 物理的環境

チェック項目	はい	いいえ
① パンティング（口をあけて呼吸）や翼を広げている鶏が多くいる。	☐	☐
② 鶏がいる場所といない場所がはっきりと分かれている（鶏の分布に明らかな偏りがある。）。	☐	☐
③ 目に異常のある鶏が多くいる。	☐	☐
④ 羽毛の汚れや損傷が激しい鶏が多くいる。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、暑熱・寒冷対策や換気の状態、敷料の質等の再確認が必要です。

第4 苦痛・傷害・疾病

チェック項目	はい	いいえ
① 死亡鶏が多くいる（急に死亡鶏の数が増えた。）。	☐	☐
② 疾病や損傷が見られる鶏が増えている。	☐	☐
③ 歩けない鶏や歩き方に異常のある鶏が多くいる。	☐	☐
④ ソフトボーン（カルシウム不足）や竜骨の変形を起こしている鶏が多くいる。	☐	☐
⑤ 脚の裏に炎症（趾蹼）を起こしている鶏が多くいる。	☐	☐
⑥ ワクモ等の外部寄生虫の鶏体への寄生又は鶏舎内に集塊が観察される。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、疾病発生や寄生虫の浸潤を疑うほか、換気を含む鶏舎施設の点検や飼養空間、飼料設計等の再確認が必要です。

第5 行動

チェック項目	はい	いいえ
① 集団でつつかれて衰弱・損傷した鶏や、脱腸した鶏が多くいる（羽つつきやカニバリズムが起こっている。）。	☐	☐
② （砂浴び場がある場合）砂浴び行動をしている鶏が少ない。	☐	☐
③ （餌場がある場合）ついばみ行動をしている鶏が少ない。	☐	☐
④ （巣箱がある場合）営巣行動をしている鶏が少ない。	☐	☐
⑤ （止まり木がある場合）止まり木を利用している鶏が少ない。	☐	☐

⇒「はい」がある場合は、飼養空間、床の状態、飼養設備の設計等の再確認が必要です。